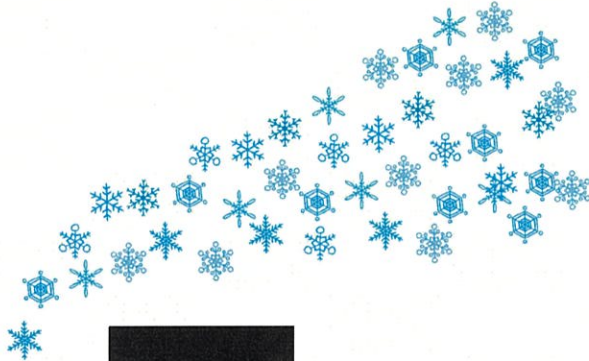
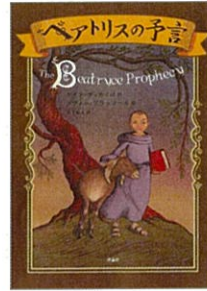


BOOK TRAIN

ブックトレイン



『ベアトリスの予言』

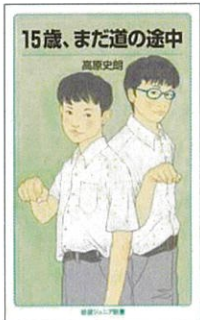


ケイト・ディカミロ/作
ソフィー・ブラッコール/絵
宮下 嶺夫/訳
評論社

限られた人しか読み書きが許されなかった時代。「ひとりの少女があらわれて、悪しき心を持った王を追放するだろう」という予言があった。ある日、修道院のヤギ小屋に倒れていたベアトリスは、名前の外的記憶をなくしていた。文字を巧みに操る彼女は予言の少女なのだろうか？ 信頼のおける仲間たちに助けられながら、ベアトリスは悪に立ち向かっていく！



『15歳、まだ道の途中』



高原 史朗/著
岩波書店

漫才が好きな清宮は道徳の授業が苦手。「オオカミ少年」について、嘘はいけないという意見が続く中、新任の野口先生が、もっと「ボケたりつつこむところ」がない？ と言うのを聞いて……。立場を変えて考えることで、見え方も変わってゆく。清宮を中心に、生徒たちが自分の生き方に向き合う姿が描かれている。心の中の想いに共鳴してくれる一冊。

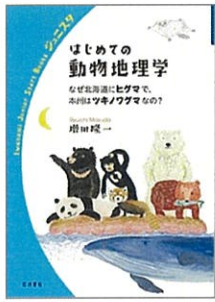
『西の果ての白馬』



マイケル・モーパーゴ/作
ないとう ふみこ/訳
徳間書店

ファンタジーゆかりの地、イギリスのコーンウォール半島を舞台にした短編集。妖精との出会いや不思議な体験に翻弄される人々の、人生が変わっていく姿が描かれている。それぞれの話が少しずつ交わり合い、最後には驚くべき展開が……。 「はじめに」から順番に読み進めることで、「作者」からの仕掛けを存分に楽しむことができるだろう。





『はじめての どうぶつちりがく 動物地理学』

ほっかいどう
なぜ北海道にヒグマで、
ほんしゅう
本州はツキノワグマなの？

増田 隆一/著
岩波書店

コアラやパンダなど、固有種と呼ばれる動物が、ある一定の地域だけに生息していることを、不思議に思ったことはないだろうか？ 長い歴史の中で、彼らは地球上をどのように移動し、今いる場所にいたのか。それを研究する学問が「動物地理学」である。「そこにいる」ことには、相応の理由や歴史がある！ 動物たちの旅路を一緒にたどる一冊。



ふるもり 『古森のひみつ』

ディーノ・ブツァーティ/作
川端 則子/訳
岩波書店

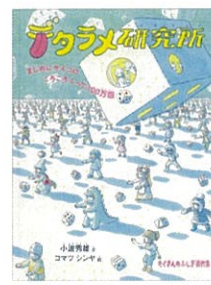
広大な森を相続したプローコロ大佐。森の一部は古森と呼ばれ、動物や木の精たちが穏やかに暮らしていた。大佐と同じく森を相続した少年ベンヴェヌートは、精霊らの力を借りて、徐々にたくましく成長していく。一方、ベンヴェヌートを疎ましく思う大佐は、非道な策略をめぐらせるが……。イタリアの風土が育んだ、恐ろしくも美しい傑作ファンタジー。



『バーバラ・レオニ・ピカード くに 7つの国のおとぎ話』

バーバラ・レオニ・ピカード/作
安藤 紀子/訳
洋洋社/発行所
ロクリン社/発売元

美しい王女から出された「結婚の条件」に挑もうとする王子（「首飾り」）。知らぬ間に魔法で100年後の森に転移させられた侯爵令嬢（「メリセント姫」）。困難に直面した登場人物たちは、どのようにして幸せをつかみ取ったのか？ 現代にも通じる幸せの在り方が、生き生きと描かれている。一味違った展開が味わえる「おとぎ話」集。



けんきゅうじょ 『デタラメ研究所』

まじめにサイコロ
ころころふって100万回

小波 秀雄/文
コマツ シンヤ/絵
福音館書店

サイコロをふって、3連続で「1」が出たことに奇跡を感じるエヌくん。しかし、デタラメ研究所の研究員アールは、サイコロの出目は「デタラメ」なのだと言う。アールの言う「デタラメ」とは一体どういう意味なのか？ サイコロや誕生日など、身近な事から題材にした「確率」コミック。「デタラメ」には、予測困難な未来を生きるヒントが隠されている！